

SERENA BOOK

MAKOTO☆SKIP PRESENTS

ナイトメアアゲイン

Nightmare again

R18

ADULT ONLY



Nightmare again

ナイトメア アゲイン



正統に力をつけて、
月衣を着て、
伝説の土地を
せしめたい。

この年、
青い流石
よき流れ
よき流れ

ゴキウの
カメキの
カメキの
カメキの
カメキの
カメキの
カメキの
カメキの

七人の
埋め込み
ポロジ
宣伝中に
強制的

このミ
角には
夕ジ
スーオ
トイ

「今日は
ありがとう」

「モデルがいい
おかげで

素晴らしい
写真が撮れるよ」

「こちらこそ
こんな素敵な
衣装を着て」

「モデルをさせて
もらえるなんて
光栄です」

カメラを
向けられると
少し恐怖が蘇るが

それでも
こうした時間が
つらい過去の
出来事を

ひと時でも
忘れられるいい
機会だとセレナは
感じていた。

すると不意に
スタジオの
扉が開き誰かが
近づいてくる

「セレナちゃん
久しぶりい」

恐怖でセレナの
顔がひきつる

それはセレナを
陵辱し続けた
仲間の一人だった。

「その着物
すごいでしょ

国宝級の
何千万もする上物
なんだよ（本当）」

「ただね、生地が
すごく繊細で
ナイロンなんかと
触れるとすぐに
傷んじゃうんだ（ウソ）」

「だから着物を
着るときは絶対
下着をつけちゃ
いけないんだよ
知ってた？」

「オイ兄ちゃん
ちやんと
伝えたんだろ」

「…はい」

「え!?…そんな
あの…私」

「ひん剥いて
パンツ穿いてるか
見せろってんだよ!」

「いやあ!」

「生意気に!
ブラまでしやがって
全部脱げばいんだよ!
よく見せる!」

ズ
ッ
ッ
ッ

「オイオイ
みる！
もう生地が
ダメになつてる
じゃねーか！（ウン）」

「この前の
慰謝料くらいじゃ
足りねーぞ」

「この落とし前
どう付けるつもりだ
ああ？」

「私なにも
知らなくて……」

「またこの身体で稼いで弁償するしかないーな。なあせレナちゃん」
「オラとつとと股ひらけ！」

いやああ
あああ！

「もう、もうやめてあんな事：もういやっ！」
「るせーなてめーがどうとか関係ねんだよ！」

「お願いもうこんな事しないで！ゆるして！」

「へへ：相変わらず可愛いツルマンじゃねーか」

「うるせー！
じゃあおまえの
母親に変わって
もらうか」

「有名人なんだから？
ぶりっぶりに
熟れた身体してる
そうじゃねーか」

「いいねえ
ガキのセレナちゃん
にちよつと飽きてきた
所だったんだよね」

あんっ

「お、おねがい
ママには手を
出さないで…」

「じゃあ
セレナちゃんが
この口りまん
で相手してくれ
るってコトね」

しゃ

ニ、ニ、ニ

「(ケケ…ババア
なんか売りになる
わけねーだろ)」

「じゃあもつと
膣内まで見える
ようにちゃんと
広げる」

「相変わらず
柔らかい
ロリまんだな」

「お？ なんだ
シワツと温つて
きてるじゃ
ねーか」

トーン フォ

「見られて濡れる
なんてガキの
くせになんて
ど変態だ」

「オイ 記念だ
最高画質で
撮りまくって
やれ」

「いやあああー！」

「なにが『いやあ』
なんだよ」

「このドスケベ
まんこはちんぽ
くわえりや
すぐにヨダレ
垂れ流すくせに」

おまんこ
おまんこ
おまんこ
おまんこ
おまんこ

「ホラちゃんと
隅々まで舐め
まわして
やるよお」

「いやあ…ああん」

んんっ

トグ
トグ
トグ
トグ
トグ

「ハメ撮るだけじゃ
能がないし」
「こんなのどう？
気持ちいいでしょ」

ゴリゴリが
すこい
もちい
まぢい
たぢい
イク
っ

「ホラ結び目
におまんこ押し付けて
感じなよお」
「痛い…ああ…ん
痛い」

きん

モゾ

ミチ

ミチ

モゾ

「次は緊縛なんて
どう？」

「自慢のおっぱいが
強調されて
エロさが増すよお」

ムンムン♡

ムンムン

ゴリ

ゴリ

「うはっ 良い
締め付け！」

「膣内が
ビクンビクン
してるよ」

パシ
ギョッ

ギョッ

「拘束されて
無理矢理
されて
感じてる？」

あがつ

「オイ！
入っでいいぞ」

「ヘイ」

「セレナちゃんが
1本じゃ物足りない
とよ」

グガガッ

「うおおお…
アナルまんこも
すげえ気持ちい」

はうっ

チュッ
プン

ヌチュ
ヌチュ

グ
グ

ヌチュ
ヌチュ
チュ
チュ

ヌ
グ

「ああああ…
こんな…苦しい」

「動けない」

「おいおい
二本差しで
自分で動きたいの？」

「そのまま
爆乳ゆらして
ぎやははは」

「おーし
今度は吊るそうぜ」

「どすけべ
まんこの
鑑賞会だ」

「愛液があふれて
きてるぜ感じて
てるのか？」

「こつちに胸向けな
ミルクでるまで
おっ立った乳首
吸い続けてやるよ」

ヌヂュ

「今度は
じっくり
おまんこ
味わうか」

ヌヂュ

ヌヂュ

ヌヂュ

ズグ

「身体
柔らかなあ」

「そつち持って
もつと足広げ
させようぜ」

ビュッ

「この体位
いつもと違う
所が刺激されて
気持ちいっしょよ」
「見られながら
じゃなきゃイケない
変態に調教して
あげるからね」

チュ
グ

ジュ
グ
グ
グ
グ

「こんな…
はずかしの
…やああ…んっ」
「恥ずかしくても
足が閉じられ
ない所がいいん
じゃない」

ヌ
グ

「まんこ
見られてるぞ
まんこが！
ほら！」

「すげー
マツ生でじゅぶ
じゅぶいってるよ」

「見られて興奮
してるの？
乳首もクリも
すこい立ってるぜ」

「本当に
ド変態だな
セレナちゃんはw」

グ
グ
グ

グ
グ
グ

ポ
グ
グ
グ

「まんこだけじゃ物足りないでしょケツまんこも… おお…すげっ」

「マジでこのまま中出ししていいの？」

ジュッパン

オオオ

「いい いい セレナちゃん生以外でセックスした事ないし」

「アナルと二本挿しも大好きだもんね」

ジュッ

「セレナちゃん集団レイプ以外でセックした事ないしw」

「挿入する所見られながらじゃないと感じない」

ジュッ

「ド変態な子供だもんねえ」

「だから今日もたつぷり膣内にそそいであげるから…ねっ…うー」

ジュッ

ジュッ

ビク

ビクビク

ドラ

「また膣内なかにされてる… イっちやう…あん」

それから何時間たったのか
何人の相手をさせられたのか
わかりませんでした。
ただ気がついたら…

「ほら中出し
されたまんこ
よく見せて

カメラに向かって
ピースして

これなら着物代も
すぐに返済できると
思うよ」

「(こんなドル箱の
上玉手放すわけ
ねーだろ。いくら
稼いだと思っただよ
…ケケケ)」

私の悪夢は
まだまだ続きそうです。

ドオ





SERENA BOOK 4

Nightmare again ナイトメア アゲイン

■発行日 2015/08/16

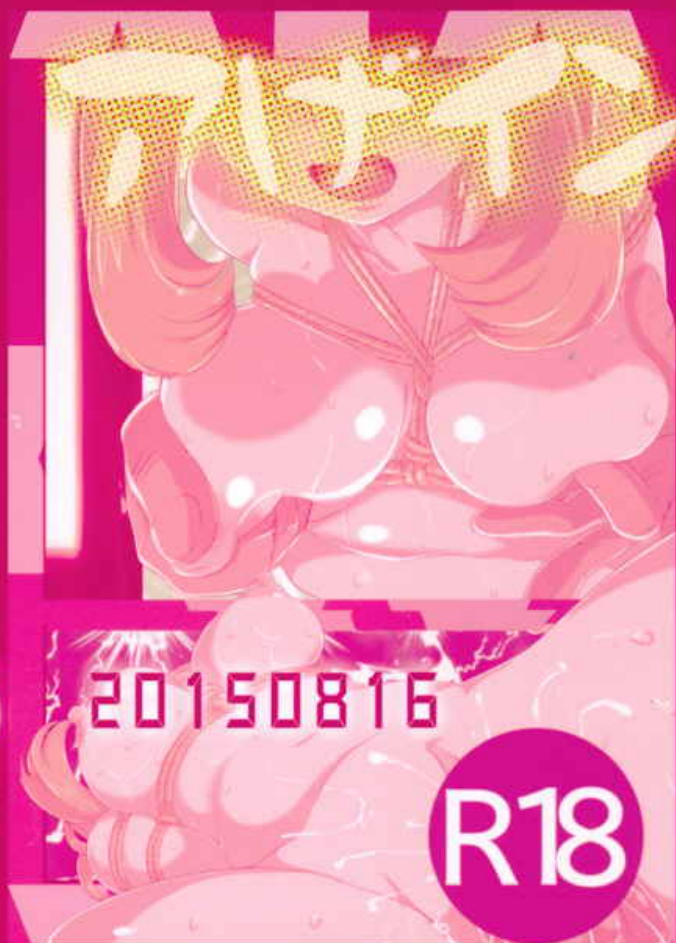
■発行 まこと☆スキップ
まこと大吉 栄光印刷

MAIL junjun3169@yahoo.co.jp

URL <http://pixiv.me/bee-j1>

■未成年の購読・購買を禁じます。
無断転載も禁止です。

4



20150816

R18